

平成30年の火災から 電気火災の概要



名古屋市消防局

平成30年中に名古屋市内では569件の火災が発生しました。前年比では18件増加しましたが、昭和26年以降で3番目に少ない火災件数となりました。一方、火災による死者数は21人と、前年より3人減少しています。

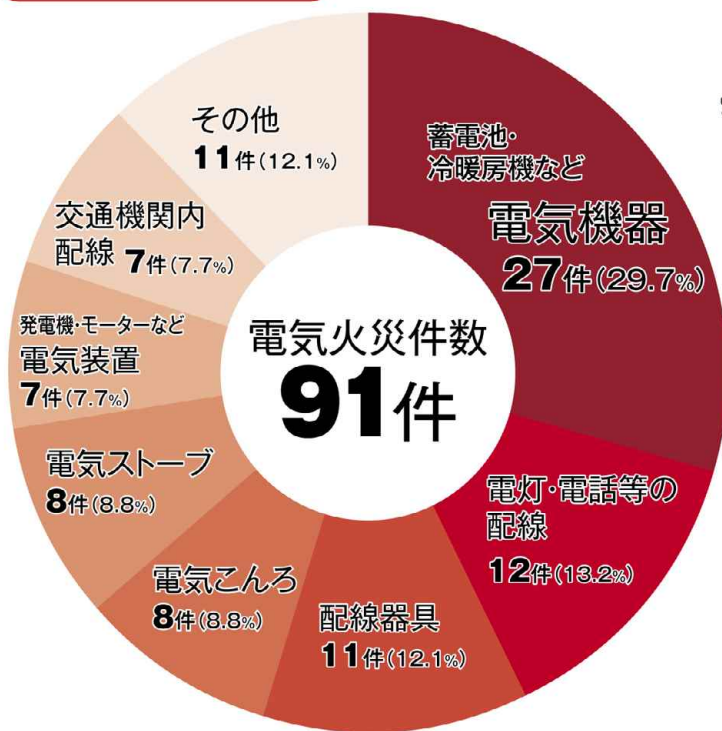
平成30年中に名古屋市内で発生した569件の火災のうち、電気に起因する火災（以下「電気火災」という。）は91件で、前年より1件増加し、全火災の約16%を占めています。

平成30年中の電気火災を細分すると、家電製品や電池などの「電気機器」からの出火が27件で最も多く、次いで屋外配線や屋内配線などの「電灯・電話等の配線」が12件、コンセントやプラグなどの「配線器具」が11件、「電気こんろ」、「電気ストーブ」が8件、発電機やモーターなどの「電気装置」、車両配線などの「交通機関内配線」が7件となっています。

なお、電気火災の出火の要因を見ると「電線が短絡する」が14件、「トラッキング」が11件、「半断線により発熱する」が9件の順になっています。

（「 」内の言葉は当局が火災統計分類上使用している用語です。）

電気火災の出火原因



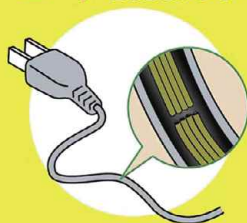
電気火災の事例

- エアコンの電源コードプラグがコンセントに差し込み不十分であったため、湿気や埃などが付着したことによりトラッキングが発生し出火
- 重い家具などの下敷きとなった延長コードが半断線状態になり、配線が短絡し出火
- 電気ストーブをつけたまま就寝したため、布団がストーブに接触し出火

私たちは数多くの電気機器に囲まれて生活しています。電気はたいへん便利なものですが、誤った使い方をするとうつ火災につながる可能性があるということを認識して、電気火災の防止に努めていただくようお願いいたします。

電気火災に注意！

コードを踏まない



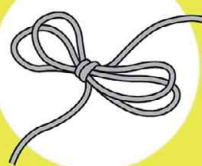
断線して発火する危険

コードを
引っ張らない



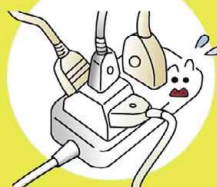
断線の原因になり危険

コードを
束ねたまま使わない



束ねた部分が発火する危険

コンセントに電気容量
以上の機器を繋げない

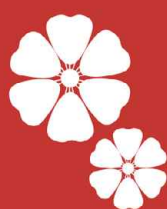


発熱し、出火する危険

コンセントプラグに
ほこり・湿気を溜めない



トラッキング現象が起こる危険



春の火災予防運動



実施期間: 3/1(金) ~ 3/7(木)

名古屋市消防局

平成30年度全国統一防火標語

「忘れてない？ サイフにスマホに火の確認」

空気の乾燥や暖房器具の使用により、火災が発生しやすいシーズンであることから、全国一斉に「春の火災予防運動」が実施されます。次の点に注意して事業所の防火対策をお願いします。

- タバコの火の始末を確実にする、こんろを使用している時はその場から離れない等、火気の適正な管理をする。
- 従業員一人ひとりが、火災が発生した場合の役割を確実にできるように、定期的に消防訓練を実施する。
- 消火器や自動火災報知設備、誘導灯などの消防用設備等を適切に維持管理する。
- 放火火災を防ぐために、建物の周囲や階段、通路に燃えやすい物を置かない。また、倉庫など人の出入りが少ない建物の施錠管理を徹底する。



台所、寝室、(寝室のある階の)階段に「住宅用火災警報器」は設置していますか? 万が一の火災に備えて正常に作動するかをこの機会に点検を実施し、設置から10年を目安に取り替えましょう!